

林兼産業株式会社

2013年3月期 決算説明資料

決算概況と2ヵ年経営計画

2013年5月14日

I 2013年3月期実績

連結損益計算書の概要	… 3
経常利益の増減要因	… 4
セグメント別の売上高・営業利益	… 5
貸借対照表の概要	… 6
キャッシュ・フロー計算書の概要	… 7
業績の推移	… 8
セグメントの状況	… 9-11

II 2カ年経営計画

2カ年経営計画	… 13
2カ年経営計画初年度の状況	… 14
2カ年経営計画の進捗状況	… 15
セグメント施策	… 16-21
業績見通し	… 22-23
今後の施策	… 24-25

I 2013年3月期実績

連結損益計算書の概要

(百万円)

	2012年3月期累計	2013年3月期 通期実績			
		実績	前年増減	業績予想(2013.2)	業績予想増減
売上高	48,314	45,482	▲2,832	45,800	▲317
営業利益	614	319	▲294	300	19
経常利益	560	355	▲204	370	▲14
当期純利益	▲894	351	1,246	270	81

前期との主な変動要因

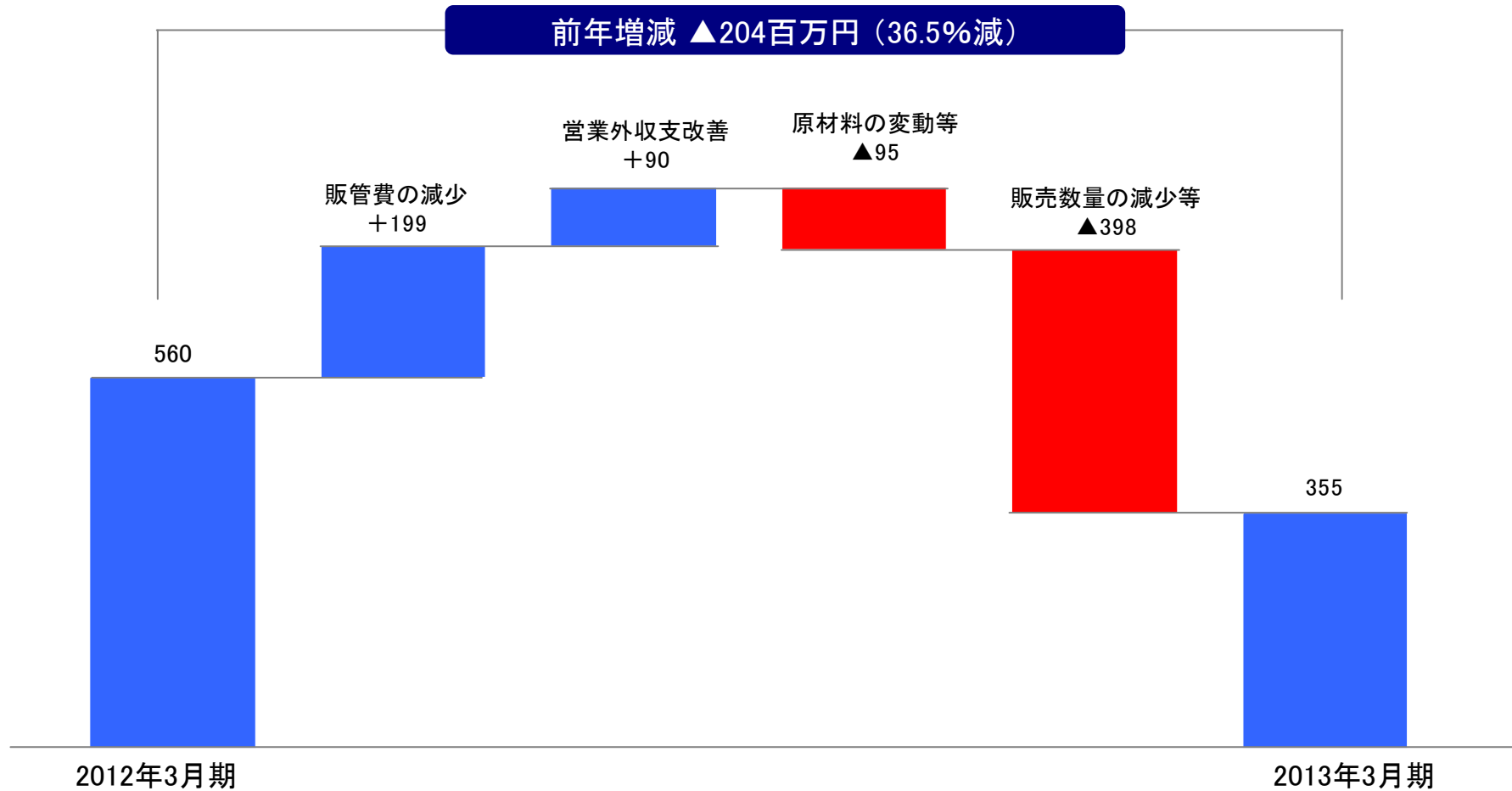
売上高 畜産用飼料製造中止による減収
 魚肉ねり製品販売数量減により減収
 採算性を重視した肉類の販売数量減

営業利益 魚肉ねり製品販売数量減により減益
 原材料価格の高騰により減益

当期純利益 特別利益計上 受取賠償金 165百万円
 特別損失計上 工場改修工事に伴う固定資産廃棄損 51百万円

販売数量の減少や原材料価格の高騰等により減益

(単位:百万円)



セグメント別の売上高・営業利益

(百万円)

	2012年3月期実績	2013年3月期 実績			
		実績	前年増減	業績予想(2013.2)	業績予想増減
売上高	48,314	45,482	▲2,832	45,800	▲317
水産食品事業	4,970	4,340	▲629	4,300	40
畜産食品事業	18,495	17,861	▲633	17,800	61
飼料事業	22,734	21,375	▲1,359	21,900	▲524
その他の事業	2,114	1,904	▲210	1,800	104
営業利益	614	319	▲294	300	19
水産食品事業	209	46	▲163	45	1
畜産食品事業	343	365	22	430	▲64
飼料事業	971	819	▲151	840	▲20
その他の事業	168	158	▲9	140	18
消去又は全社	▲1,078	▲1,071	7	▲1,155	83

貸借対照表の概要

(単位:百万円)

	2012年3月期末	2013年3月期末	
			増減
流動資産	12,496	12,562	66
固定資産	14,721	14,892	170
資産合計	27,218	27,455	237
流動負債	15,819	15,722	▲96
固定負債	7,301	7,113	▲187
負債合計	23,120	22,836	▲284
純資産合計	4,097	4,618	521
負債純資産合計	27,218	27,455	237

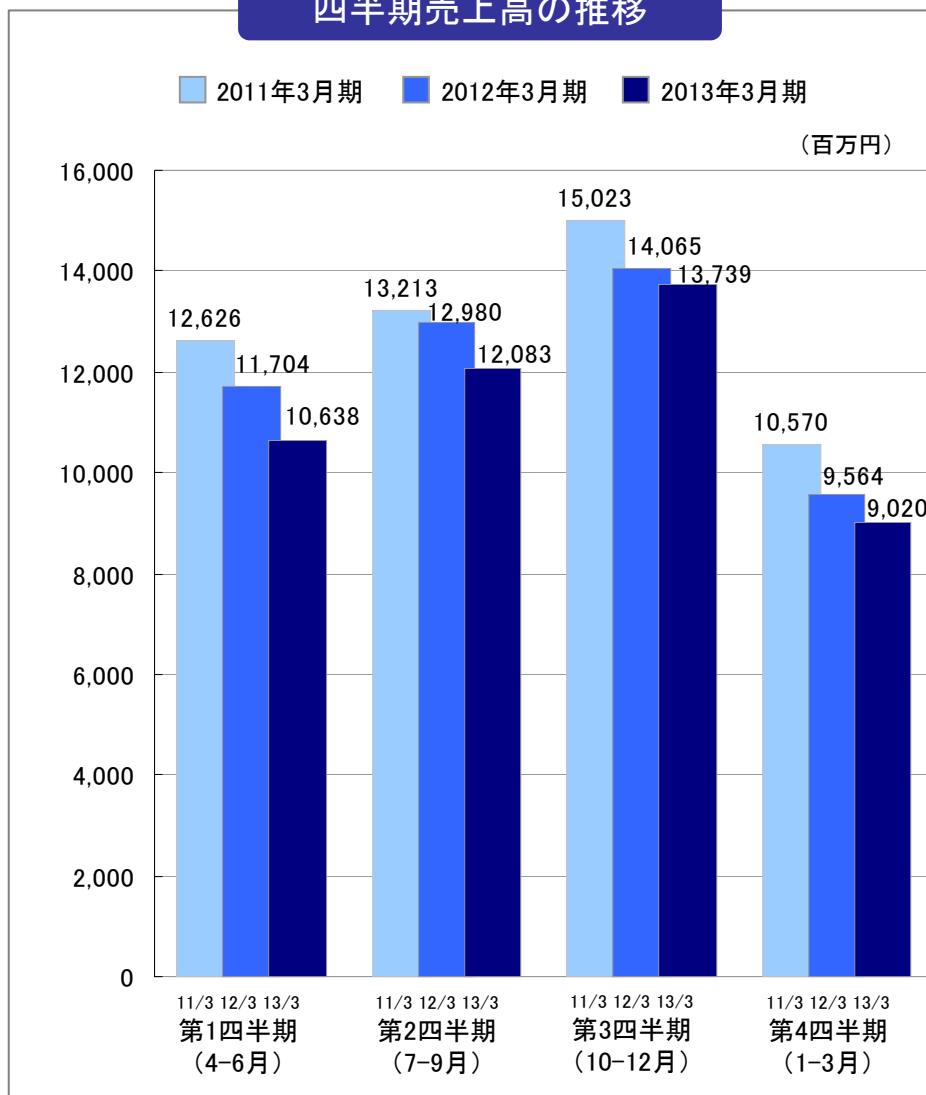
キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

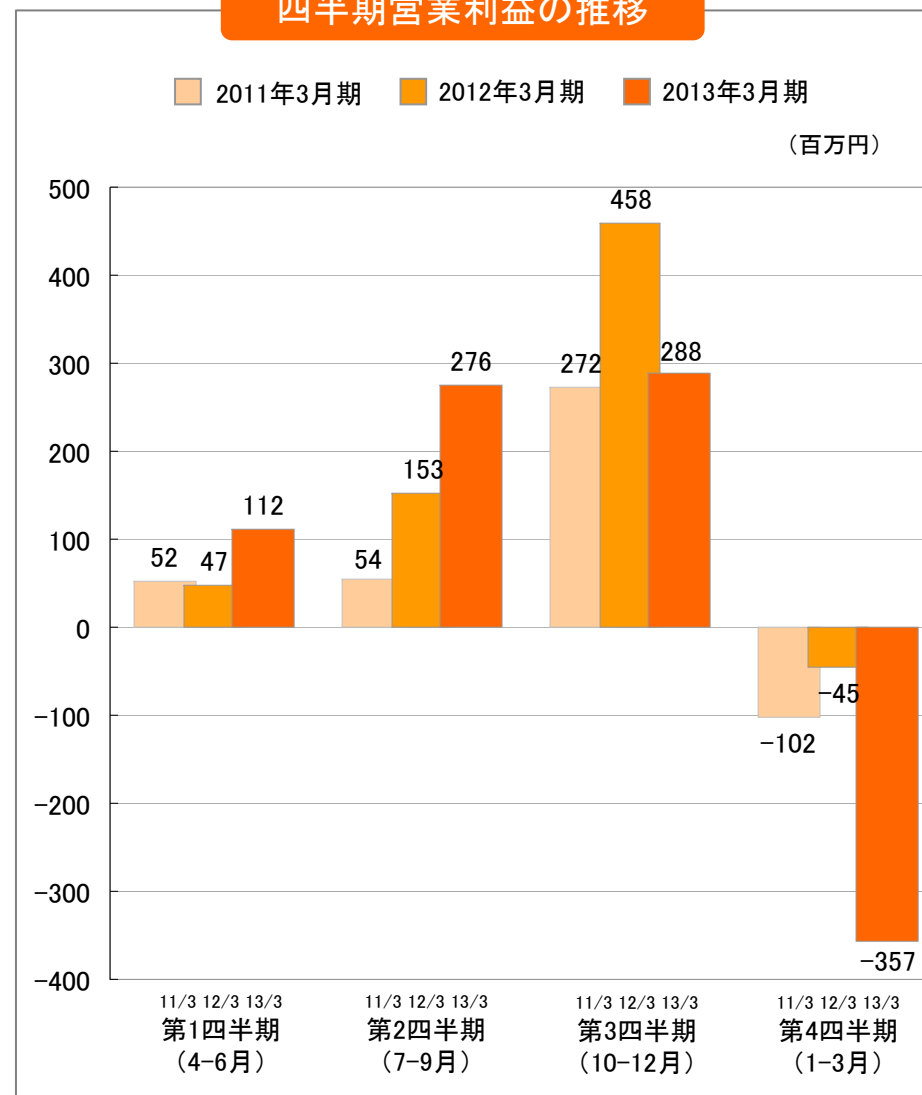
	2012年3月期	2013年3月期	
			前年増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,458	258	▲2,199
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲516	▲504	11
フリー・キャッシュ・フロー	1,942	▲245	▲2,188
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,038	▲427	610
現金及び現金同等物の増減額	903	▲673	▲1,577
現金及び現金同等物の期首残高	1,845	2,749	903
現金及び現金同等物の期末残高	2,749	2,075	▲673

四半期業績の推移（売上高・営業利益）

四半期売上高の推移



四半期営業利益の推移

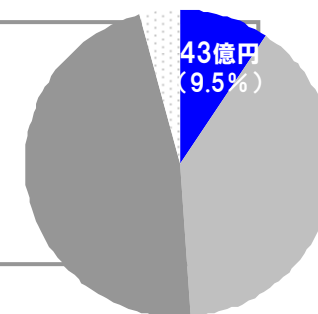


概況：魚肉ねり製品の数量減少により減収減益

水産食品事業

売上高 43億40百万円（前期比 12.7 %減）

営業利益 46百万円（前期比 77.7%減）



2013年3月期の状況

水産食品

- ・ 魚肉ねり製品事業
 - 販売数量の減少により減収
 - 生産ライン集約工事実施

機能食品

- ・ 市場拡大傾向のなか、売上拡大により増収増益
- ・ エラスチンの靱帯改善機能を確認。新たなアプローチを開始
 - … 商品開発に注力
- ・ 高齢者向けソフト食「ソフミート」
 - … 異業種と共同でソフト食セミナーを実施。売上拡大を図る。前期比 115%
- ・ 和菓子およびゼリーの売上拡大
 - … 和菓子委託先生産ラインを増設。前期比 111%

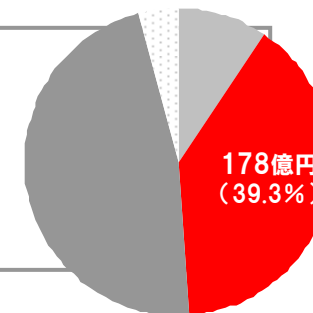
セグメントの状況（畜産食品事業）

概況：減収となったものの採算性重視の取組みにより増益

畜産食品事業

売上高 178億61百万円（前期比 3.4%減）

営業利益 3億65百万円（前期比 6.4%増）



2013年3月期の状況

食肉加工品

- ・ 受託生産数量減少により減収
- ・ 関東地区については、既存得意先の取り組み強化、自社販売ルートの開拓を実施

食肉

- ・ 豚肉・牛肉の販売数量は減少したものの、採算性を重視した結果、利益率が改善し増益
- ・ 都城ウエルネスミートの豚処理頭数増加により増益

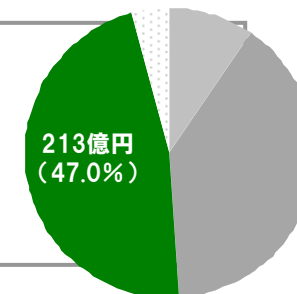
調理食品

- ・ 惣菜などの販売が好調に推移し、販売単価が上昇したことにより増収

概況：原材料価格の高騰等により減益

飼料事業

売上高	213億75百万円	（前期比 6.0%減）
営業利益	8億19百万円	（前期比 15.6%減）



2013年3月期の状況

養魚用飼料

- ・ 販売数量は堅調に推移したものの販売単価の下落により減収
- ・ 海外への飼料拡販により輸出増加

水産物

- ・ 自社ブランド「うまかぶり」の拡販により増収
- ・ 水産物市況は低迷

畜産用飼料

- ・ 下関工場での畜産用飼料製造中止（2012年6月）により減収

畜産物

- ・ 「赤鷄さつま」を中心とした販売に取り組むものの、市況低迷により減収

II

2カ年経営計画の進捗状況

基本方針

可能な限りスリムで生産性の高い体制を構築することにより収益力を回復し、コスト競争力を確保することを基本戦略とする。

「構造改革」

対象工場の最適化により固定費の大幅削減を行う。ライン集約・要員削減を行い、一旦生産数量を落として収益基盤の改善を図る

「コスト削減」

将来的には改めて売上げ拡大を目指すものとする。生産部門においては固定費を増加させないように管理し生産力を高める。今後、コスト競争力と営業強化をもって利益増加を図る。

再構築対象

《初年度の取組み》

魚肉ねり製品事業のスリム化

食品下関第一工場

飼料事業の選択と集中

飼料下関工場

《2年目の取組み》

「畜産食品事業の基盤整備、販売強化」

・工場体制の見直し

食品下関第二工場、都城工場

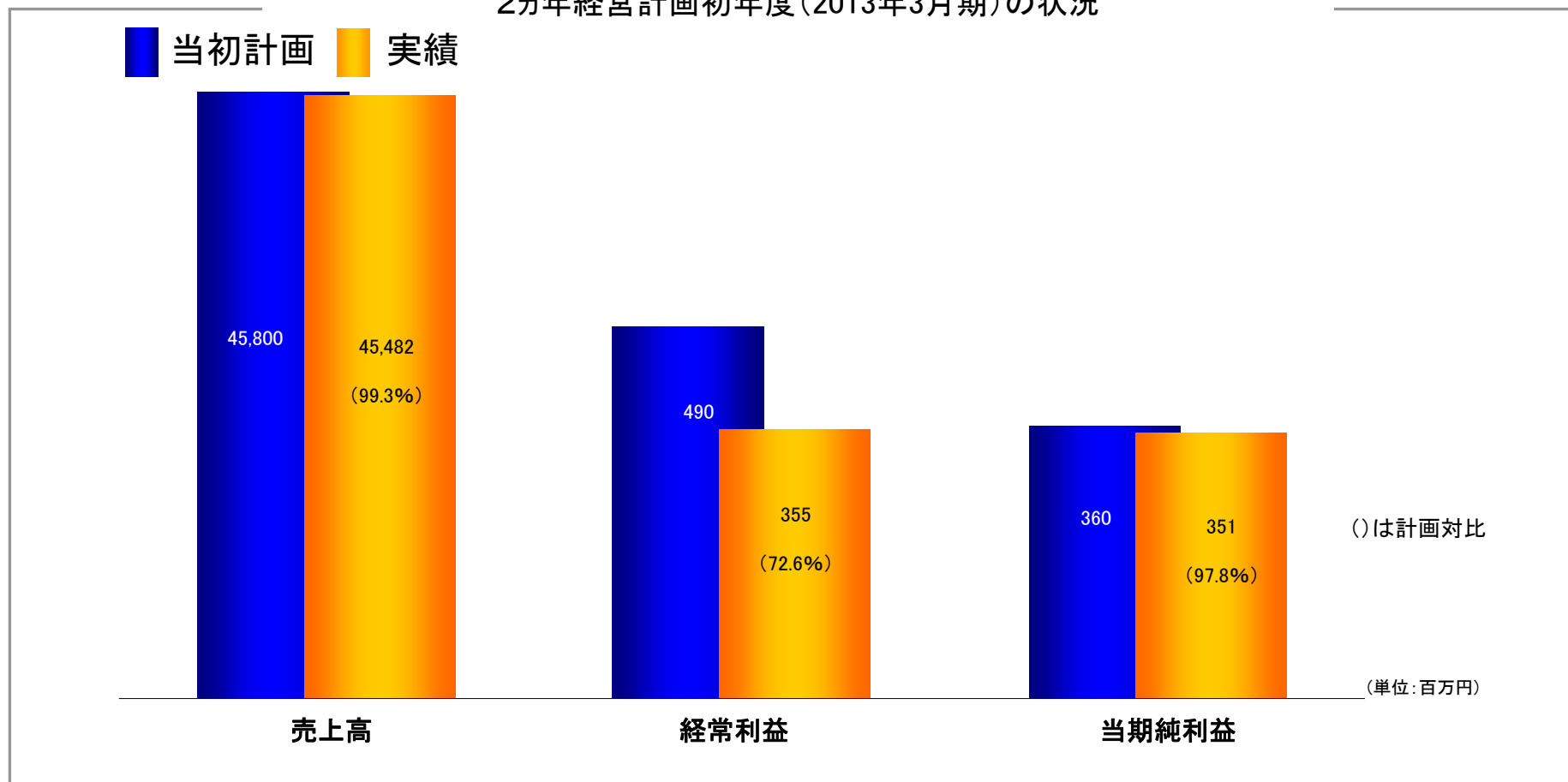
・営業強化

営業企画部門新設

2カ年経営計画初年度の状況

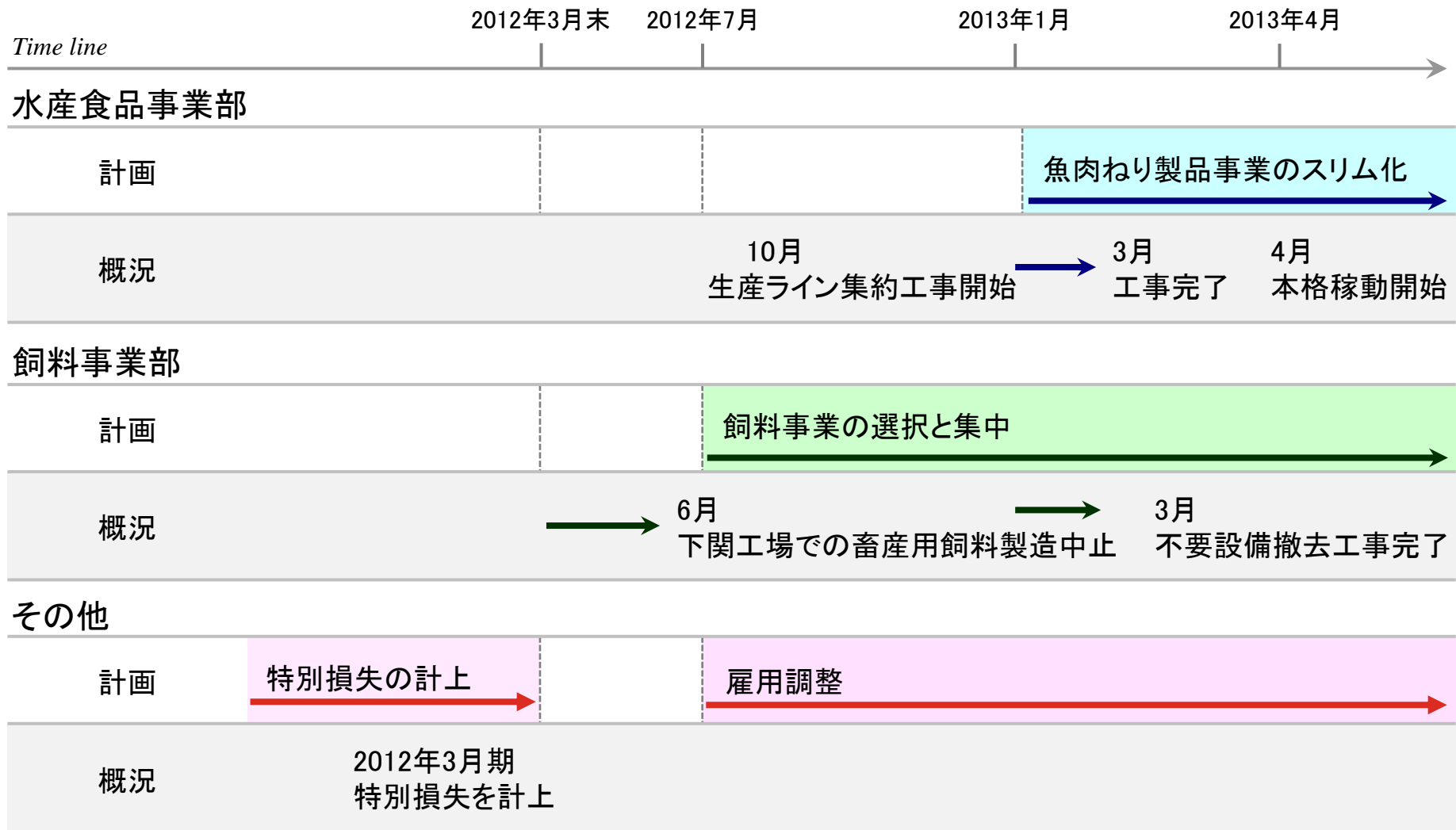
「2カ年経営計画」につきましては、魚肉ねり製品事業のスリム化のための下関第一工場のライン集約工事と、飼料下関工場での畜産用飼料の生産中止に伴う不要設備の撤去工事を完了し、当初計画に沿って構造改革を進行中です。本計画の初年度における連結業績については売上高454億82百万円(計画比99.3%)、経常利益3億55百万円(計画比72.6%)、当期純利益3億51百万円(計画比97.8%)となり、計画をやや下回る水準で推移いたしました。

2カ年経営計画初年度(2013年3月期)の状況



2カ年経営計画の進捗状況

2カ年経営計画に沿い、下関飼料工場での畜産用飼料製造を中止。水産食品における生産ライン集約工事完了。



水産食品事業

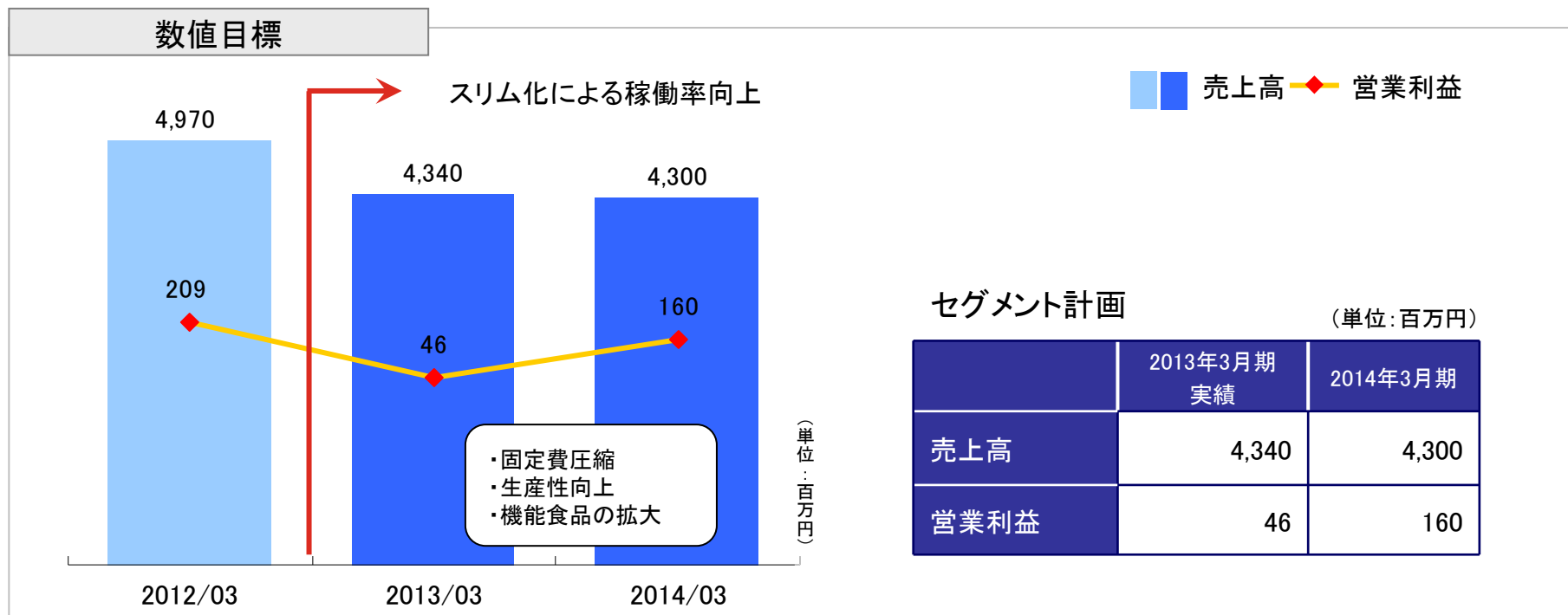
重点施策

- ・ 下関第一工場の生産ライン集約
- ・ 生産数量の適正化
- ・ 機能食品の拡大

魚肉ねり製品事業のスリム化

固定費圧縮・効率性向上

数値目標



水産食品事業

アクションプラン

魚肉ねり製品事業のスリム化

魚肉ねり製品事業は成熟事業と捉え、今後の市場規模縮小に備えてスリム化を行う。
また、事業構造転換の過渡期として数量圧縮へ前向きに取り組み、アイテム削減と効率化により利益確保を目指す。

- ・ 下関第一工場の生産ライン集約による効率化 *工事完了(2013年3月)*
- ・ 海外事業(輸出)の拡大
- ・ 新規業務用ユーザーの開拓
- ・ 固定費の圧縮
 - 市場規模の縮小と設備老朽化への対応
 - 最適な生産体制の構築

機能食品の拡大

市場の拡大を背景として、機能性食品素材や高齢者向け食品などの売上拡大、新商品開発に注力。

- ・ 関東・関西エリアを優先して拡販強化
- ・ 機能性素材(エラスチン・アスコフィラン・ヒシエキス)のエビデンス構築による新市場の創出
- ・ 高齢者食、保健機能食品(ソフミート、和菓子)の販売拡大
 - 和菓子販売加速 *和菓子増産体制完了(2012年10月)*
 - 在宅介護市場への参入

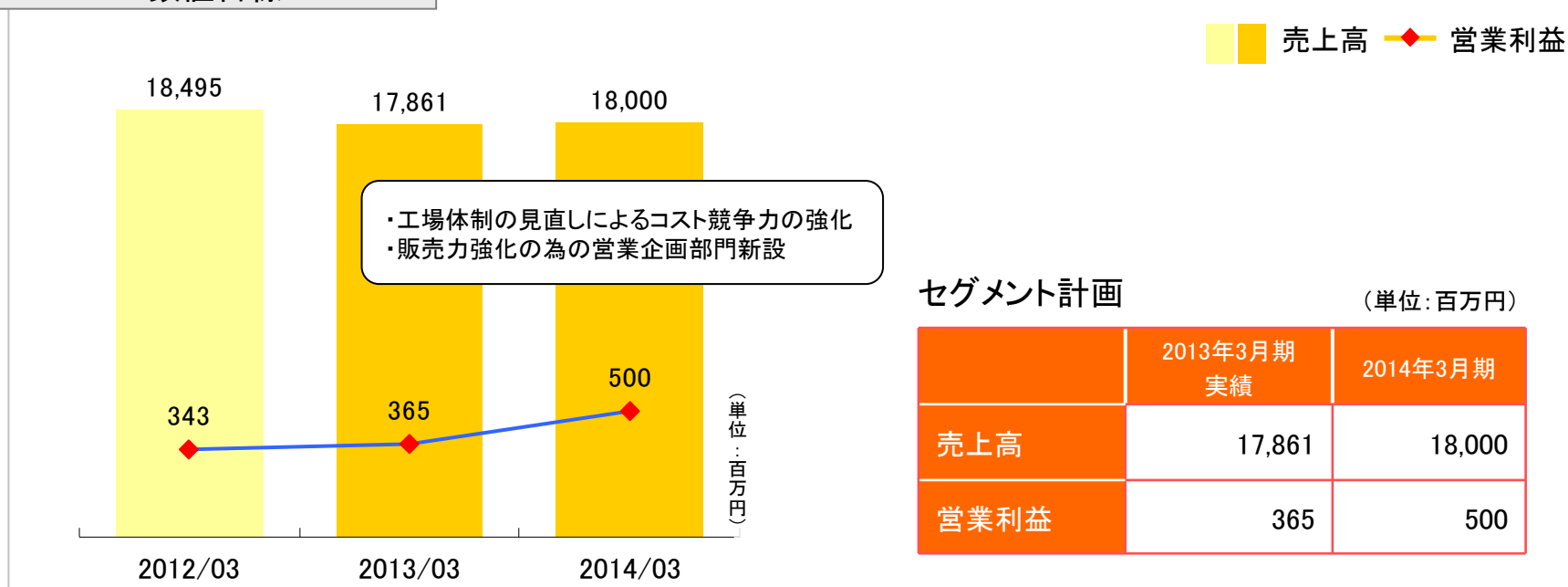
畜産食品事業

重点施策

- ・霧島黒豚のブランド強化
- ・調理加工品の増産、販売体制の強化
- ・工場体制の見直しによるコスト競争力の強化



数値目標



セグメント計画

(単位:百万円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期
売上高	17,861	18,000
営業利益	365	500

畜産食品事業

アクションプラン

工場体制の見直し

- ・ 生産移管等により各工場の位置付けを明確化
 - ⇒ 下関第二工場＝量産製造ライン、都城工場＝高付加価値製造ライン
- ・ 生ハム製造ラインの整備(都城工場)

営業企画部門の新設

- ・ 霧島黒豚ブランドの認知度アップ
 - ⇒ 高級路線(銘店とのコラボレーション)、拡販路線(イメージキャラクター導入等による新規購買層開拓)
- ・ 海外への霧島黒豚輸出

売上高の拡大

- ・ 大都市圏を重点とした得意先開拓
- ・ 大手得意先との連携強化



霧島黒豚イメージキャラクター ポークくん

飼料事業

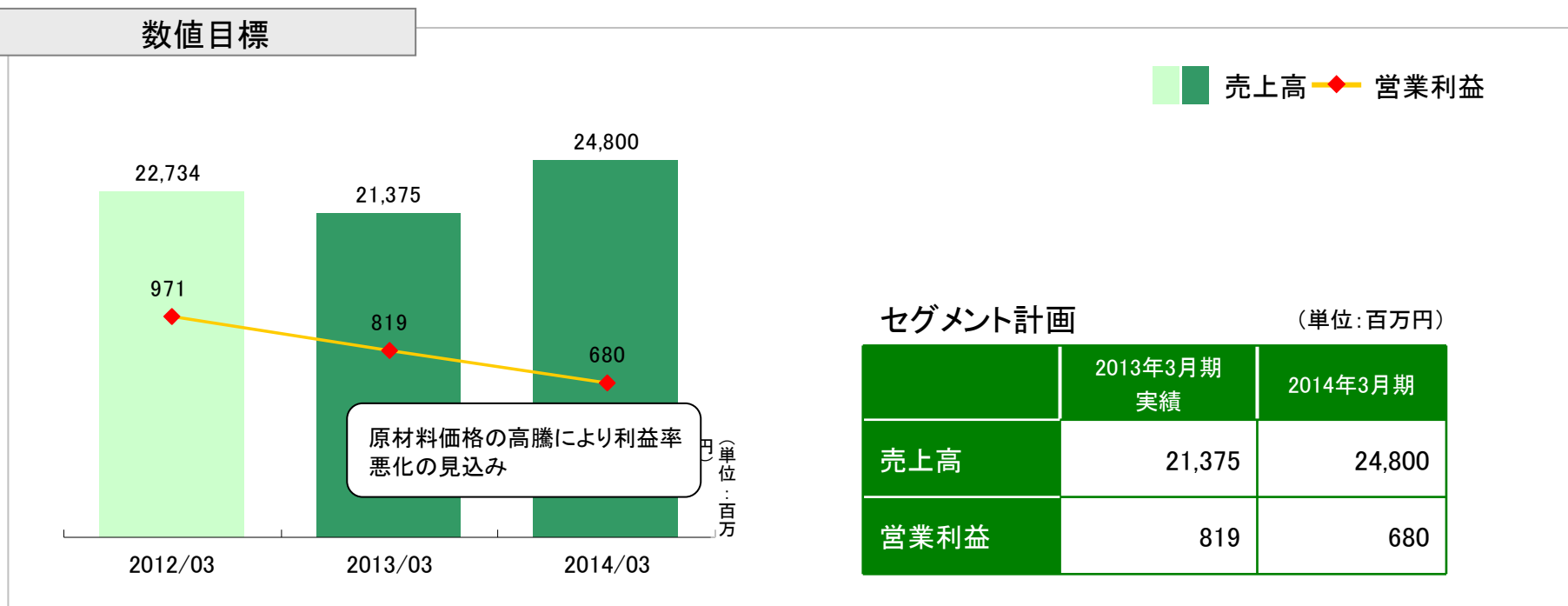
重点施策

飼料事業の選択と集中

- ・ 下関工場での畜産用飼料の製造中止(完了)
- ・ 養魚用飼料製造に特化する

養魚用飼料拡大のための増強へ

数値目標



セグメント計画

(単位:百万円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期
売上高	21,375	24,800
営業利益	819	680

飼料事業

アクションプラン

下関工場での畜産用飼料の製造中止(2012年6月完了)

養魚用飼料の製造販売に経営資源を集中させることで収益体制の再構築に取り組む。

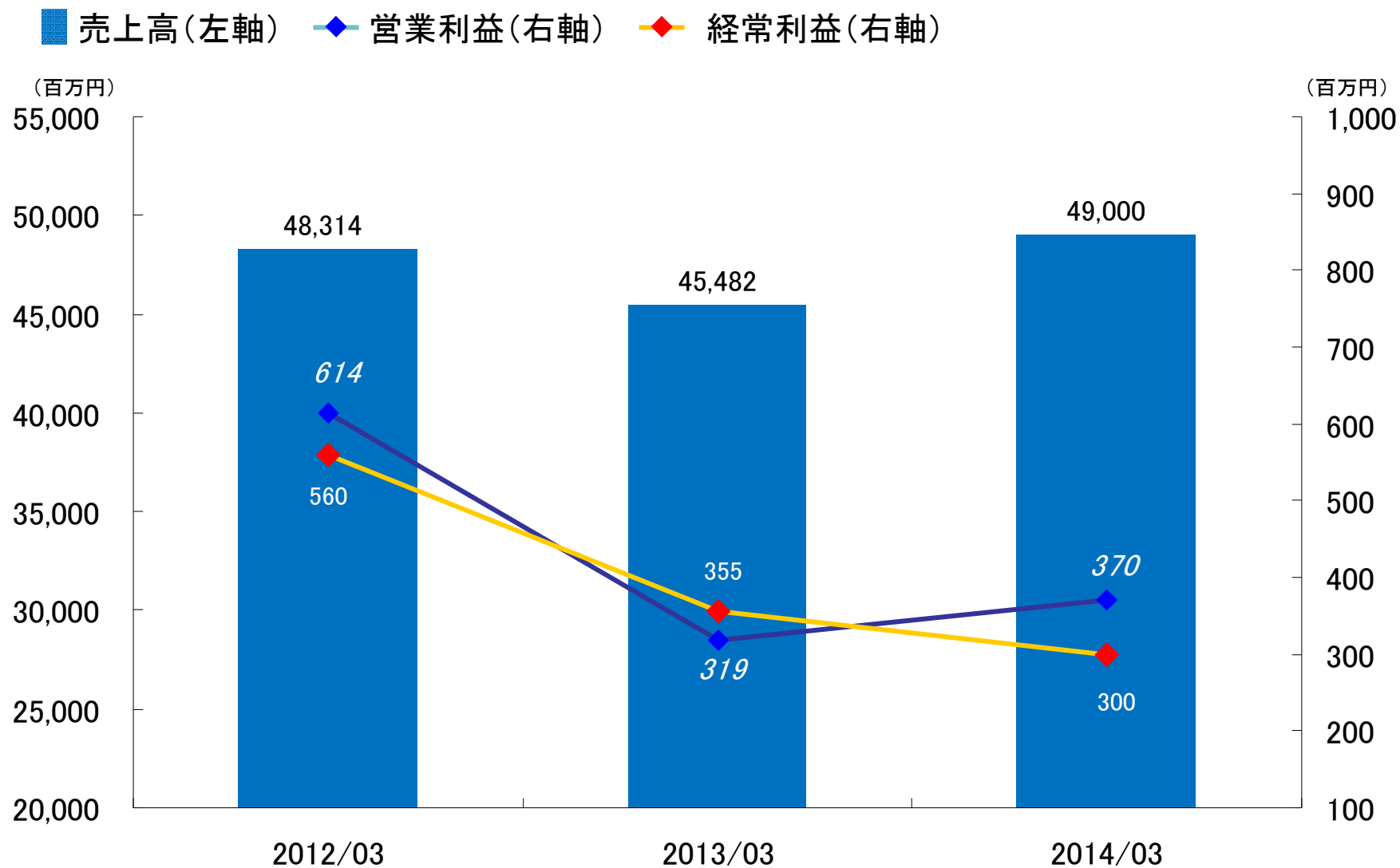
- ・下関工場での畜産用飼料の製造は中止し他社へ製造委託 → 養魚用飼料製造に特化。
- ・志布志飼料株式会社(当社関連会社)での畜産用飼料製造は継続し、南九州地区を中心に拡販。

養魚用飼料への特化

養魚用飼料に特化することで、安定的な数量と利益を確保。

同時に、当社の技術を活かした差別化できる新商品の開発を推進することで将来的な収益源を確保する。

- ・受託製造の拡大
- ・マグロ用飼料などオンリーワン技術飼料の拡販
- ・魚粉事情に価格や成育が影響されにくい新時代飼料の普及・定着、新魚種用の開発



(百万円)

	2013年3月期実績	2014年3月期業績見通し	増減
売上高	45,482	49,000	3,517
水産食品事業	4,340	4,300	▲40
畜産食品事業	17,861	18,000	138
飼料事業	21,375	24,800	3,424
その他の事業	1,904	1,900	▲4
営業利益	319	370	50
水産食品事業	46	160	113
畜産食品事業	365	500	134
飼料事業	819	680	▲139
その他の事業	158	60	▲98
消去又は全社	▲1,071	▲1,030	41
経常利益	355	300	▲55
当期純利益	351	180	▲171

機能食品の拡大

ソフミート(ソフト食)

高齢者が増える国内市場において、ソフト食を開発・販売。
咀嚼困難な方の為の新しい介護食として拡大。

和菓子

和菓子としての完成度の高さだけでなく、鉄分・カルシウムを配合した保健機能食品、栄養機能食品として販売。

エラスチン

魚類由来の有効成分を抽出。ドリンク、パウダー、サプリメント、他食品に配合することで素材としての可能性を追求。

素材としての可能性

美容関連素材：皮膚機能改善、向上(シワ、弾力性など)

循環器対応素材：血管機能の改善、向上

※ロコモティブシンドローム関連素材：靭帯、腱などの損傷予防

※ロコモティブシンドロームとは、主に加齢による運動器の障害のため、移動能力の低下をきたし、要介護となる危険の高い状態をさし、足腰の骨、関節、筋肉、靭帯、腱などの劣化が歩行困難をもたらす運動器症候群のことを言います。



▲ 和菓子のラインナップ(一例)



▲ 増設した和菓子ライン

ハラール食品事業の展開

2010年12月末

マレーシアに合弁会社OMAKANE SDN. BHD. 設立



2012年秋

現地でのハラールソーセージの本格生産・販売(量販店への配荷)開始

2013年春

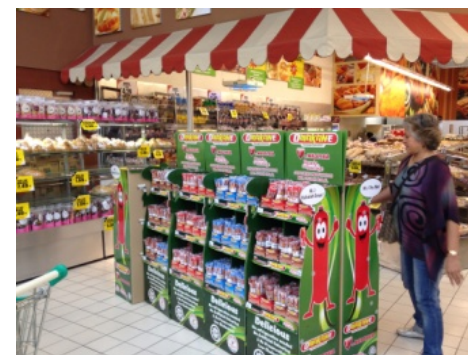
MIHAS2013(マレーシア国際ハラール見本市)出展

現地量販店への配荷を拡大

新製品投入および既存品リニューアル作業中

2012年度には、トルコ(イスタンブール)、韓国(釜山)、インドネシア(ジャカルタ)、香港の各展示会にも出展。マレーシアから他国への輸出も検討中。

ハラール食品(イスラム食品)とは、イスラム法の下では、加工や調理に関して厳格な作法が要求されます。イスラム法が遵守された食品がハラール(「許された」という意味)とされます。



▲専用スペースを確保した量販店の売場展開



▲MIHAS2013出展風景▼



▲量販店への販売活動中

 林兼産業株式会社

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

IRお問い合わせ先

林兼産業株式会社 管理本部総務部

TEL 083-266-0210

IRサイト <http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html>